

令和6年10月10日

担当課：文化振興課
直 通：092-643-3382
内 線：2832
担 当：市村、森

第32回福岡県文化賞受賞者を決定しました

- 福岡県では、県民の皆さんの幅広い文化活動を促進し、本県文化の向上・発展を図るため、文化振興に顕著な功績のあった個人や団体に「福岡県文化賞」を贈っています。
- 平成5年度の創設以来、これまで123の個人・団体を表彰してきました。
- このたび、市町村、文化関係団体、報道機関等から推薦があった個人・団体の中から、外部有識者で構成される「福岡県文化賞選考委員会」の選考を経て、

- ・ 創造部門 ひらいで 平出 たかし 隆 さん（詩人、作家、造本家）
- ・ 社会部門 まつざき 松崎 ひろふみ 宏史 さん（アーティスト・イン・レジデンス運営）
- ・ 奨励部門 えり 江里 ともこ 朋子 さん（截金作家）

に、第32回福岡県文化賞を贈呈することを決定しました。

- 今回の文化賞贈呈式&記念イベントは、令和6年12月15日（日）に、アクロス福岡で行う予定としています。

1 受賞者の概要

別紙のとおり

2 福岡県文化賞について

- ・趣 旨：芸術文化、地域文化、伝統文化、生活文化など様々な視点から県民の文化活動を多角的にとらえ、特色ある文化活動により文化の振興に顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって県民の多様な文化活動を奨励し、本県文化の向上・発展に資すること
- ・表彰部門：3部門（創造部門、社会部門、奨励部門）

〔創造部門〕

1. 氏名 ^{ひらいで たかし}平出 隆（詩人、作家、造本家）
（北九州市特命大使（文化大使）、多摩美術大学名誉教授）
2. 年齢 73歳 ※R6.10.10現在
3. 住所 東京都（北九州市門司区出身）



【経歴及び選考理由】

昭和47年、一橋大学在学中に詩誌「ユリイカ」に詩及び詩論を発表してデビュー。以後、自身でプライベート・プレス（版元）を構えながら、詩と散文にまたがる広大な領域を切りひらき、大江健三郎により「詩の中から新しい散文を生み出す詩人」として海外へ紹介された。

氏はこれまでに数々の詩集や小説を執筆し、昭和59年には詩集「胡桃の戦意のために」で「芸術選奨文部大臣新人賞」を、平成5年には散文集「左手日記例言」で「読売文学賞」を、平成14年には小説「猫の客」で「木山捷平文学賞」並びにエッセイ集「ベルリンの瞬間」で「JTB紀行文学大賞」を、平成21年には英訳された詩集「胡桃の戦意のために」でアメリカの「最優秀海外図書大賞」を受賞、小説「猫の客」は25カ国語に翻訳出版され、国際的ベストセラーとなるなど、国内外で高い評価を得ている。

また、詩人・作家としてのほか、「郵便と一体化した本」を考案するなど、造本家としても活躍。平成30年にDIC川村記念美術館は「言語と美術——平出隆と美術家たち」展を開催した。自装による長篇評伝「伊良子清白」は、平成16年に「芸術選奨文部科学大臣賞」及び「造本装幀コンクール経済産業大臣賞」を受賞、ライブチ国際ブックフェアにおける「世界でもっとも美しい本」賞の候補となった。

また、平成20年の第1回から参加した「日中韓東アジア文学フォーラム」では、平成22年第2回フォーラムの北九州市での開催を提案、実行委員会副委員長として日中韓の作家の同市での交流に尽力した。

さらに、平成22年からは小中学生を対象とした「あなたにaitakute生まれてきた詩コンクール」（北九州市主催）の最終選考委員を務めるなど、次世代の人材育成にも積極的に取り組んでいる。

このように氏は、詩人・作家・造本家として国内外で活躍するとともに、出身地である北九州市において後進の育成に取り組むなど、本県文化の振興に貢献している。

【主な著書】

- 「詩集旅籠屋」（昭和51年）
- 「平出隆詩集」（昭和52年）
- 「破船のゆくえ」「胡桃の戦意のために」（昭和57年）
- 「若い整骨師の肖像」（昭和59年）
- 「家の緑閃光」（昭和62年）
- 「ベースボールの詩学」「白球礼讃」（平成元年）
- 「左手日記例言」（平成5年）
- 「弔父百首」（平成12年）
- 「葉書でドナルド・エヴァンズに」「猫の客」（平成13年）
- 「ベルリンの瞬間」（平成14年）
- 「伊良子清白（月光抄・日光抄）」（平成15年）
- 「ウィリアム・ブレイクのバット」（平成16年）
- 「鳥を探しに」（平成22年）
- 「via wwalnuts叢書 1～30」（平成22年～）
- 「私のティーアガルテン行」（平成30年）
- 「ppripo」（令和3年）



自装による長篇評伝
「伊良子清白」（平成15年）
・芸術選奨文部科学大臣賞（平成16年）
・造本装幀コンクール経済産業大臣賞（平成16年）

【主な受賞歴】

- 第34回芸術選奨文部科学大臣新人賞（昭和59年）詩集「胡桃の戦意のために」
- 第45回読売文学賞（平成5年）散文集「左手日記例言」
- 北九州市民文化賞（平成6年）
- 第6回木山捷平文学賞（平成14年）小説「猫の客」
- 第11回JTB紀行文学大賞（平成14年）エッセイ集「ベルリンの瞬間」
- 第54回芸術選奨文部科学大臣賞（平成16年）評伝「伊良子清白」
- 第38回造本装幀コンクール経済産業大臣賞（平成16年）評伝「伊良子清白」
- 第42回藤村記念歷程賞（平成16年）評伝「伊良子清白」「伊良子清白全集」など
- 最優秀海外図書大賞（アメリカ）（平成21年）詩集「胡桃の戦意のために」



小説「猫の客」の翻訳出版
”The Guest Cat”（平成26年）

（参考）創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したものの

〔社 会 部 門〕

1. 氏 名 ^{まつざき ひろふみ} 松崎 宏史 (アーティスト・イン・レジデンス運営)
2. 年 齢 45歳 ※R6.10.10現在
3. 住 所 糸島市



【経歴及び選考理由】

広島市立大学芸術学部油絵科卒業後、ドイツハノーバー専科大学で学ぶ。ヨーロッパを中心に世界各地で展示を行うとともに、一定期間アーティストがある土地に滞在して作家活動を行う「アーティスト・イン・レジデンス」に応募し、各国各都市で活動してきた。この経験を活かし、実家の米蔵を活用して、自分でもアーティスト・イン・レジデンスができるのではないかと2年間ほど実験的に開催した後、故郷である糸島市に拠点を移し、平成21年、アートカンパニー「株式会社Studio Kura」を設立。

「糸島から世界に文化発信！」をモットーに、アーティスト・イン・レジデンスプログラムや美術教育、美術作品制作事業を手がけており、地域の方を対象にした美術教室や、九州の幼稚園・保育園における出張教室などを開催している。

氏の実家の蔵で始まったこのアーティスト・イン・レジデンスは、現在では、糸島市に常時10人分の滞在部屋とアトリエを点在させ、毎年100人のアーティストを海外から集める日本最大規模のレジデンスと化している。

レジデンスを行ううちに、自然と面白い人が集まるようになり、また、地域の農家も興味を示すようになってきたことから、アートの力でみんなを集めることはできないかと、平成24年に国際芸術祭「糸島芸農」を開始（隔年開催／氏は実行委員長を務める）。

本芸術祭は、アートを媒体として、糸島の日常風景ともいえる食や農業などを表現し、地域と作家がともに作りあげていく芸術祭で、今では地元の方が展示の見張りや制作に積極的に参加するなど、続けて行く中で、確実に地域に浸透している。

このように氏は、様々な活動を通じて、本県の芸術文化の振興に貢献している。

【海外在住中のアーティスト・イン・レジデンス活動歴】

- アーティストハウスタヘレス（ベルリン、ドイツ）（平成16～17年）
- ギャラリーネプロサ（ハラバ、メキシコ）（平成17年）
- 14. LindArt international Artist Colony（レンダバ、スロベニア）（平成20年）
- De Schildersweek（ドンブルク、オランダ）（平成20年）
- Air Krems（クレームス、オーストリア）（平成21年）
- Instinc（シンガポール）（平成22年）

【海外在住中の主な展覧会】

- 「ネッツギャラリー」（広島、日本）（平成15年）
- 「ギャラリーネプロサ」（ハラバ、メキシコ）（平成17年）
- 「タヘレスノイエギャラリー」（ベルリン、ドイツ）（平成17年）
- 「ギャラリーファンゴ」（コトブス、ドイツ）（平成17年）
- 「イマジンハウス」（福岡、日本）（平成18年）
- 「マキイマサル ファインアーツ」（東京、日本）（平成21年）
- 「インスティンク」（シンガポール）（平成22年）



国際芸術祭
「糸島芸農」
の様子



松崎氏が運営する
アーティスト・イン・レジデンス「Studio Kura」



子ども絵画造形教室の様子

（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い、相互理解、文化交流の発展に貢献したもの

〔奨励部門〕

1. 氏名 江里 朋子 (截金作家)
2. 年齢 52歳 ※R6.10.10現在
3. 住所 福岡市



【経歴及び選考理由】

截金とは、純金箔やプラチナ箔を数枚焼き合わせ、厚みをもたせたものを鹿皮の盤の上で竹刀にて細く線状、または、丸・三角・四角などに切り、それを筆端につけて貼りながら種々なる文様を描き出す技法である。

6世紀に仏教とともに大陸より伝えられ、仏像・仏画などで、仏様や菩薩様が身に着ける着衣や甲冑などの織物や金工、革の文様を表すことから始まり、仏教美術における仏様や仏様の素晴らしさを讃嘆して飾り立てるという意味の「荘厳（しょうごん）」するための技法として発展した。

13世紀頃には他の仏教美術とともに頂点を極めるが、次第に仏教美術の凋落、金泥技法の出現などで、截金の手法は衰退。近世以降は、東西両本願寺の庇護のもと少数の截金師により伝承されてきた。

その截金の技法を一般に広めるため、茶道具や工芸品に展開し創作を重ね、その功績が認められ国の重要無形文化財「截金」保持者に認定された截金作家の一人が、氏の母、佐代子氏である。

氏は、京都芸術短期大学卒業後、人間国宝である母に師事し、截金制作を始める。父は、仏様の姿を木に刻む仏師、江里 康慧氏であり、氏の出発点は父が彫った仏像に装飾を施すことであった。

平成13年からは、夫の故郷である福岡に移住。母の技術を受け継ぎ、仏像や仏画の加飾荘厳として用いられる截金技術を工芸品や建築装飾に展開し、飾管や茶道具、欄間装飾など截金の可能性を拓ける魅力的な作品を創作し続けている。

創作の拠点は福岡にありながら、今も京都で仏像作品に取り組んでいる。福岡と京都を行き来しながら創作活動を行うことについて、氏は、「温故知新／温故＝京都、知新＝福岡」に例え、京都で古いものから勉強をして、福岡でより新しいものを探っていくという良いバランスで創作活動を行っているとする。

平成23年には、「日本伝統工芸展」に初出品した「截金飾箱『皓華』」で「日本工芸会新人賞」を受賞。平成31年には、「西部伝統工芸展」に出品した「截金飾管『憧憬』」で最高賞である「朝日新聞社大賞」、令和6年日本伝統工芸展にて「日本工芸会奨励賞」を受賞するなど、多くの公募展において数々の賞を受賞している。

さらに平成31年には、九州歴史資料館において、子ども向け截金体験講座を開催。参加した小学5、6年生ら約20人に対し、截金の歴史や工程の紹介、制作指導等を行うなど、截金の世界を多くの方に知ってもらうための活動を行っている。

このように氏は、福岡を拠点として、世界的にも希少な截金の伝承・発信を行っており、今後の活躍が大いに期待される。

【主な受賞歴】

- 第58回日本伝統工芸展 日本工芸会新人賞 (平成23年)
- 第48回西部伝統工芸展 九州朝日放送賞 (平成25年)
- 第27回伝統工芸諸工芸展 日本工芸会賞 (平成31年)
- 第54回西部伝統工芸展 朝日新聞社大賞 (平成31年)
- 京都府文化賞 奨励賞 (令和2年)
- 第55回西部伝統工芸展 日本工芸会西部支部長賞 (令和3年)
- 第56回西部伝統工芸展 日本工芸会西部支部長賞 (令和4年)
- 第57回西部伝統工芸展 KKB鹿児島放送賞 (令和5年)
- 第58回西部伝統工芸展 福岡市長賞 (令和6年)
- 第71回日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞 (令和6年)

【主な活動】

- 截金四季模様欄間作成 (京都市 わざ永々棟) (平成22年)
- 截金鳳凰文様欄間作成 (福岡市 料亭嵯峨野) (平成23年)
- 截金額装「花の宴」作成 (京都市 THE BLOSSOM KYOTO) (令和4年)



きりかねがざりぼこ しょうけい
「截金飾箱『憧憬』」
西部伝統工芸展
朝日新聞社大賞 (平成31年)



きりかねがざりぼこ そら しら
「截金飾箱『宙の調べ』」
日本工芸展
日本工芸会奨励大賞 (令和6年)
画像提供：(公社)日本工芸会

(参考)

奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの

福岡県文化賞受賞者一覧

回	年	創造部門	交流部門	社会部門	奨励部門	特別部門
1	H 5	画家 野見山 暁治	ペシヤワール会	嘉徳劇場 代表 伊藤 英子	篆刻書道家 師村 妙石	財団法人 九州交響楽団
2	H 6	作家 森崎 和江	北九州国際音楽祭 音楽 監督 新井 淑子	幸若舞保存会	作家 杉本 章子	葦書房 有限会社
3	H 7	RKB毎日放送 エグゼクティブプロデューサー 木村 栄文	アジア美術家連盟 日本委員会	遠賀川に鮭を呼び戻す 会	作家・精神科医 帯木 蓬生	劇団 青春座
4	H 8	画家 菊畑 茂久馬	福岡県 子ども劇場連絡会	筑豊青少年交響楽団 代表 伊藤 光	俳優 中西 和久	声楽家 渡辺 葉子
5	H 9	建築家 葉 祥栄	クレイアーチスト 高鶴 元	北九州交響楽団	画家 井上 敬一	九州交響楽団 音楽監督 石丸 寛
6	H10	作家 村田 喜代子	飯塚新人音楽 コンクールを育てる会	漂着物研究家 石井 忠	鍔金家 遠藤 喜代志	グラフィックデザイナー 松永 真
7	H11	作家 白石 一郎	筑後吉井の小さな美術館め ぐり実行委員会	田川合唱団 代表 田中凡平	造形美術家 江上 計太	漫画家 松本 零士
8	H12	書家 松永 隆	社団法人 福岡県美術協会	福岡県地方史研究会 古文書を読む会	陶芸家 福島 善三	文芸評論家 星加 輝光
9	H13	作家 夏樹 静子 CGアーティスト 河口 洋一郎	特定非営利活動法人 アジア女性センター	日本史研究家 川添 昭二	(該当者なし)	ヴァイオリニスト 篠崎 史紀
10	H14	作家 高樹のぶ子	彫刻家 外尾 悦郎	田川郷土研究会	映画監督 青山 真治	写真家 石川 賢治
11	H15	作家 佐木 隆三	胡弓奏者 趙 国良	筑豊博物研究会	久留米絃作家 松枝 哲哉	財団法人 末永文化振興財団
12	H16	写真家・随筆家 藤原 新也	雅楽演奏団体 筑紫 楽所	博多史・郷土女性史研究家 武野 要子	フルート演奏家 瀬尾 和紀	文学批評家 故・花田 俊典
13	H17	画家・版画家 川原田 徹	劇団 道化	音楽文化団体 フリジストン 吹奏楽団久留米 口演童話家 本村 義雄	(該当者なし)	彫刻家 豊福 知徳
14	H18	博多人形師 中村 信喬	国際化コーディネータ ニック・サーズ	民俗研究家 佐々木哲哉	ヴァイオリニスト 南 紫音	博多織作家 小川規三郎
15	H19	声楽家 蓮井 求道	指揮者 フォルカー・レニック	出版社 有限会社海鳥社	劇団主宰 大塚ムネト	漫画家 長谷川 法世
16	H20	陶芸家・詩人 山本 源太		十八世紀音楽祭協会	建築家 松岡 恭子	
17	H21	キルト作家 山口 怜子		郷土史研究家 深町 純亮	写真家 百瀬 俊哉	
18	H22	作家 葉室 麟		庶民生活史研究家 堀切 辰一	能楽師和泉流狂言方 野村 万禄	
19	H23	作家 平野 啓一郎		日本文学研究者 前田 淑	映像ディレクター 江口 カン	
20	H24	染織家 築城 則子		福岡県立大学附属研究所生涯福祉 研究センター・山本作兵衛さんを(読 む)会	作家 西村 健	
21	H25	ピアニスト 占部 由美子		NPO法人ロシナンテス理事 長 川原 尚行	精華女子高等学校 吹奏楽部	
22	H26	染織家 釜我 敏子		特定非営利活動法人ま る	アクロス弦楽合奏団	
23	H27	作家 安部 龍太郎		北九州 フィルム・コミッション	デジタルアーティスト/九州大学大学院芸術 工学研究院学術研究員 工藤 達郎	
24	H28	美術家 田部 光子		福岡県立図書館 音訳の会	博多人形師 溝口 堂央	
25	H29	写真家 榊 晃弘		BOOKUOKA 実行委員会	和楽団ジャパンマー バラス	
26	H30	作家 東山 彰良 ゲームクリエイター 株式会社レベルファイブ代表取締役/ CEO 日野 晃博		漫才師 博多華丸・大吉	(該当者なし)	
27	R 1	漫画家 うえやまとち		中洲ジャズ実行委員会	キャラクターデザイナー 谷口 亮	
28	R 2	指揮者 小泉 和裕		アールスペース筑	作家 古川 真人	
29	R 3	博多人形師 川崎 幸子		山里の廃校利用美術館 共星の里 黒川INN美術 館	クリエイター 中村 俊介	
30	R 4	アニメーション監督 湯浅 政明	公益財団法人 福岡文化財団	人形師 中村 弘峰		
31	R 5	能楽師観世流シテ方 坂口 信男 坂口 貴信	劇団ショーマンシップ	画家 田中 千智		

※H20年度から5部門のうち交流部門と特別部門を整理し3部門に統合した

第16期福岡県文化賞選考委員会委員
 (任期:令和5年11月13日～令和7年3月31日)

15名(50音順、敬称略)

氏名	役職	就任期間	摘要
石村 一枝	元株式会社石村萬盛堂 専務取締役	2期目	
大井 実	有限会社キューブリック 代表 ブックオカ実行委員会 委員長	1期目	
尾本 章	九州大学 副学長 九州大学大学院芸術工学研究院 研究院長	1期目	委員長
小山田 英弘	北九州市立大学国際環境工学部 教授	3期目	
吉柳 佳代子	九州大谷短期大学幼児教育学科 准教授	2期目	
塚崎 謙太郎	株式会社西日本新聞社 論説委員	2期目	
中村 共子	フリーランサー(美術・伝統芸能等)	3期目	
林田 スマ	福岡県文化団体連合会副理事長	1期目	
深町 朋子	福岡女子大学 副学長	1期目	
福島 善三	人間国宝(小石原焼)	3期目	
堀 英明	株式会社ピクニック 取締役プロデューサー	2期目	
宮川 美佐子	福岡女子大学国際文理学部 教授	3期目	
吉中 美保子	西日本鉄道株式会社 まちづくり・交通・観光 推進部 部長	2期目	
ラワンチャイケン 寿子	福岡市美術館 近現代美術係長 元福岡アジア美術館 学芸課長	3期目	副委員長
渡辺 克	公益財団法人九州交響楽団 音楽主幹	1期目	